

一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク

# 2025年度 定時社員総会

## 議案書

---



# 2025（令和7）年度 定時社員総会議案

1. 2024（令和6）年度事業活動報告
2. 2024（令和6）年度収支決算報告
3. 2025（令和7）年度事業活動計画
4. その他

# 1. 2024（令和6）年度 事業活動報告

## 1 事業の実施内容

2024年度、当法人は、東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託」において、「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」の集大成および村民への還元を目的に、支援を受けた研究者から村民へのメッセージを広報とうかいにて連載する事業を行った。

### 広報とうかい 連載記事リスト

掲載号	執筆者名	タイトル
R6年4月10日号	山田 修（東海村長）	
R6年5月10日号	松原 克志（選考委員長）	支援事業の選考にあたって
R6年6月10日号	渡辺 凜（キャノングローバル戦略研究所 研究員）	東海村の若者の意見を、日本や世界へ届ける研究
R6年7月10日号	寿楽 浩太（東京電機大学教授）	東海村発の技術を本当に人びとの役に立てるには？
R6年9月10日号	城下 英行（関西大学 准教授）	災害や事故に非専門知をどう生かすのか？
R6年10月10日号	湯浅 陽一（関東学院大学教授）	少し先の村の未来像を考える
R6年11月10日号	田中 良弘（一橋大学 教授）	東海村の経験から住民参加のあり方を考える
R6年12月10日号	宮森 征司（新潟大学 准教授）	東海村の経験から住民参加のあり方を考える
R7年1月10日号	庄司 貴俊（東北学院大学 非常勤講師）	福島から見えてくる原発との向き合い方とは
R7年2月10日号	砂金 祐年（常盤大学 教授）	東海第二原発再稼働をめぐるさまざまな議論の解明
R7年3月10日号	山本 昭宏（神戸市外国語大学 准教授）	事故・災害を地域の「歴史」へ
R7年4月10日号 校了	山谷 清秀（大阪経済大学 講師）	大型研究開発事業の誘致・実施に際して自治体はどのような役割を果たすべきか
R7年5月10日号 入稿済	三好 ゆう（福知山公立大学 准教授）	原子力発電所立地自治体の産業構造はどうなっているのか
R7年6月10日号 原稿入手済	谷口 武俊	結びと今後への期待

総会を下記のとおりオンラインで開催し、活動内容や複合リスク問題についての意見交換を行った。

社員総会兼第7回理事会 2024年4月23日 16時～18時

## 2. 2024（令和6）年度 収支決算報告

※別紙「決算報告書」参照

### 3. 2025（令和7）年度の事業活動計画

- (1) 東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託」において、過去の採択研究者によるリレーエッセイの発信を支援する。

#### <業務内容>

東海村が原子力に関わる社会科学・政策科学の知を集約する研究拠点の一つとなり、その成果をまちづくりに活かしていくために、研究のネットワーク化と人材育成を図ることを目的として、「地域社会と原子力に関する社会科学の研究（以下「社会科学研究」とする）の成果を発信する。

- ① 社会科学研究に関する「広報とうかい」への記事連載
  - ・社会科学研究の選考委員および過去の採択者への執筆依頼と原稿確認
  - ・執筆者への謝礼支払い等に関する事務
- ② 社会科学研究成果の電子書籍化
  - ・前項連載記事の全体監修及び電子書籍化作業
  - ・電子書籍の公開
- ③ その他、社会科学研究の成果発信に関すること

契約額 金142,780円（消費税相当額を含む）

#### (2) Tonerico 研究会の継続実施

2024年度は開催できなかった。2025年度はメンバー拡大を図り、研究交流の場としての魅力を高めることを検討する。

- (3) 「地域社会と原子力に関する社会科学研究会（仮称）」の企画立案を行い、2025年度中開催を目指す。

#### <2024年度総会および理事会で提案されたアイデア>

- ・若手研究者育成事業の後継事業として、多様な社会科学研究者が集う場を企画する
- ・開催場所は東海村として、学生から若手研究者が宿泊、議論した内容を村民と共有できる場を計画する（サマーキャンプのような形）

### 4. その他